

I 実践

1 研究主題

「一人一人を大切にし、互いに認め合う人間性豊かな生徒の育成」

2 主題設定の理由

本校では「一人一人の生徒に人間の尊さについての自覚をもたせ、互いに大切にしよう生徒を育てる。」「自ら判断する力を養い、物事を正しく捉え、正しい判断のもとに行動できる生徒を育てる。」「互いの人権を尊重し合い、望ましい人間関係づくりに努める生徒を育てる。」の3点を目標として人権教育を推進している。

本校の生徒は同一小学校からの進学であり、お互いのことをよく知っている。そのため、生徒の仲は全体的に見ると良い方だと言える。しかし、そのような環境の中でも友人関係への不安を背景として登校が難しくなってしまう生徒も存在することは大きな課題である。

本校では平成24年9月に生徒間の心ない言動に問題意識をもった当時の1年生が中心となり、「いじめ撲滅委員会」という組織が結成された。(以下、通称のIBIと記す)IBIはまさに、本校の研究主題である「一人一人を大切にし、互いに認め合う」学校の雰囲気づくりを目指して活動しており、本校の人権教育活動の基盤である。学校の雰囲気を良くするための取り組みは本校の伝統として今もなお受け継がれており、当時の生徒が卒業した現在は各学級の役員がIBI委員となり年間を通して活動を続けている。このIBIの活動を始めた各委員会や学校行事における教育活動を通して、「一人一人を大切にし、互いに認め合う人間性豊かな生徒」を育成することは、前述した課題の解決にも繋がると考え、この主題を設定した。

3 研究の内容

- (1) IBI・JRC委員会を含む全ての委員会活動や地域行事への参加等を通して、ボランティアの精神や他者を思いやる心を育てる。
- (2) 道徳の授業を通して人権意識を高める。
- (3) 生徒の主体的な活動を通して、人間関係を深める。
- (4) 外部講師による特別授業を通じて、人権に関する情報や知識を得る。

4 実践内容

(1) 委員会活動

ア IBI委員による「あいさつ運動」「ハイタッチデー」

毎週月曜日に正門の前に立ち、登校した生徒一人一人にむけて、あいさつやハイタッチなどをすることで、さわやかな学校の雰囲気づくりと生徒一人一人の自己存在感が高揚する活動を行っている。

イ IBIでの各学級の様子を話し合う定例会

各クラスの様子を報告することで、学級の姿に客観的な目を向け、問題の有無やその原因と改善点を話し合う場を設けている。解決に向けた取り組みを具体化して学級へ還元することで安心して生活できる雰囲気づくりを行っている。

ウ JRC委員会による募金活動

災害義援金や赤い羽根募金への呼びかけを行うことで、学校の外に向けた思いやりの輪を広げる活動を行っている。

エ 体育祭での敬老種目(坂中からの贈り物)の実施

オ 地域で行われる敬老会・福祉のつどいの運営ボランティア

地域の行事への参加と人々とのふれあいを通して、他者へ思いやりの心をもって接する姿勢を育成した。JRC委員会を中心に有志を集い、運営のお手伝いを行った。

カ いじめ撲滅宣言

5月の生徒会総会でIBI委員を中心に全校生でいじめ撲滅の宣言を行った。今年度は12月に愛好日集会においても一度全体で宣言を行い、日頃の生活を見直す機会を設定した。

キ IBI集会

3学期にIBI委員が中心となって運営し、1,2年生全員が参加する。ゲーム的要素のあるSSTを全体で行ったり、安心して過ごせる学校にするために今後見直すべきことを部活動ごとにグループを作って話し合ったりと、人との関わり方を考える機会としている。

(2) 道徳の授業の充実

ア 学年一斉の時間割編成

イ 授業参観での道徳の授業を全学級公開

(3) ボランティア活動への参加

ア 敬老会へのボランティア

JRC 委員が中心となってボランティアを呼びかけ、受付や招待者へのもてなし、会の司会等の運営の手伝いを行った。また、吹奏楽部員は招待者に向けて演奏を披露している。

イ 福祉のつどいでのボランティア

JRC 委員が中心となってボランティアを募集し、様々な催し物の手伝いを行った。20名ほどが毎年参加している。

ウ 生徒会を中心とした募金活動

災害時に生徒会役員が中心となって募金を呼びかけ、義援金を送ることで被災地を支援した。

(4) 外部講師による特別授業

ア ピアサポート研修会の実施

各学級から2～3名程度ピアサポート研修生を選出し、年間を通してスクールカウンセラーによるSSTを中心とした研修を受けている。また、スクールカウンセラーを講師に1,2年生の各学級においても他者との関わりについて考える授業を1時間行った。

イ いのちの教育講演会

3年生を対象として茨城キリスト教大学の磯山あけみ先生を講師として招き異性との関わり方や性感染症の理解と予防について講演していただいた。

ウ 情報モラル教室

KDDIより講師を招き、ケータイやインターネットを利用する際のルールやマナー、トラブルの対処法などを実際に起こった事件事例をもとに講演をいただいた。画面の向こう側にいる相手に対する言葉の配慮などを具体的に知ることができた。



敬老会でのボランティア



福祉のつどいでの地域の方との交流



いじめ撲滅宣言

(5) 成果

ア IBI の定例会において、生徒の視点による各学級の現状や課題について話し合い、必要に応じて教師が指導にあたることで、問題を早期に解決することができた。

イ IBI の活動によって、いじめが起こりにくく、何かあった時には相談しやすい学校の雰囲気づくりを行うことができた。

ウ JRC 委員を中心としたボランティア活動では、体験を通して地域へ貢献する気持ちや、他者への思いやりをもった接し方や態度を養うことができた。

エ 「さわやかマナーアップ運動」ではほとんどの生徒が参加し、学校の外へ向けてあいさつ運動を行うことができた。また、活動を通して一体感を得ることができた。

オ 外部講師による講演を通して、より説得力をもって、具体的な注意点を知らせることができた。

II 今後の課題

学校行事や委員会活動において、人権教育と関連づけて多くの活動を充実させることができた。しかし、各学級における教師と生徒の人権意識の向上や、各教科や道徳の授業における人権教育の充実には今後も努力が必要である。校内研修や資料の配付を定期的に行うなど、これからの研修の充実に向けていきたい。IBI の活動では、これまでの伝統を引き継ぎながら、生徒の自主性によって今ある課題の状況に応じた柔軟な対応と多様な活動の方法が求められる。